

2026年6月12日 第3553回例会

75周年記念例会

於： 横須賀商工会議所

- <点鐘・開会> 12:30 山下 会長
<斉 唱> 「我等の生業」
<ゲスト紹介> *横須賀市経営企画部企画調整課次長 若麻績 順哉 様
*米山奨学生 朴 裁 潤 様
<会 長 報 告> *第1グループ会長・幹事会 報告
*ガバナー事務所より
・新旧ローターアクト・RYLA委員会のご案内について
6月20日(土) 17:00～ 場所: 第一相澤ビル8F 「会議室」
・メジャードナーレベル2表彰 高橋 隆一 会員



<米山奨学生へ奨学金授与>

<幹 事 報 告> *最終例会について

<出 席 報 告> *出席委員会 浅葉委員から6月12日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
110名	99名	65名(2名)	34名	7名	72.00%

メイクアップ: 植田、小林(一)両会員 理事役員会出席

小山(陽)、齋藤(秀)両会員 被選理事役員会出席

小澤会員 横須賀RAC例会出席 前田会員 地区委員会出席

吉田会員 鎌倉RC例会出席

<ニコニコ報告>

- ・三 役 横須賀市経営企画部企画調整課 若麻績順哉様、本日はようこそお越し下さいました。又日頃よりお父様には大変お世話になっております。卓話楽しみにしております。
- ・椿、大野(健)、野 坂、梁 井、井 上、八 巻、江 沢、小保内、杉 浦、新 倉、真 野、浅 葉、江 口、北 村、松本(剛)、濱 田、若麻績、高橋(健)、齋藤(眞)、角 井、渡 邊、小林(健)、高橋(健)、小佐野、田 邊、瀬 戸、齋藤(健)、池 田、澤 田、藤 村、田 中、長 尾、平 松、萩 原、徳 永、齋藤(健) 各会員
本日は75周年記念例会です。横須賀市経営企画部企画調整課次長 若麻績 順哉様による今後の横須賀が盛り上がる卓話内容です。よろしく願いいたします
- ・福 島 会員 昔の思い出ケンケンパー公園
- ・梶 木、齋藤(眞)、高橋(健)、柴 田、佐久間、比 護 各会員
米山奨学生 朴 裁潤様ようこそお越し下さいました。ごゆっくり例会をお楽しみください。
- ・柴 田 会員 誕生月祝いとして
- ・江 沢、柴 田 両会員 入会月祝いとして
- ・加藤(健)、権 田、大野(健)、木 村、濱 田、齋藤(眞)、高橋(健)、笠 木、岡田(健) 各会員
6月7日(日)に開催された「K Sports 8時間耐久 in 袖ヶ浦」にて木村会員の運転したチームが見事に優勝されました。最高に盛り上がったレースだったので、おめでとうございます!
- ・堀 川、石 田、松 川、濱 田、齋藤(眞)、角 井、石 川、高橋(健)、齋藤(眞)、兼 城、飯塚(健) 各会員
FIFAワールドカップ2026が開催されます。5大会連続出場の長友選手や横須賀出身の伊東純也選手、となりの葉山町から初めて選出された鈴木唯人(すずき ゆいと)選手などなど活躍が楽しみです。日本代表がんばれ!
- ・吉 住 会員 メルキュール横須賀は7月1日～8月31日まで【KING'S HAWAIIAN】とコラボした【ALOHA! ハワイフェア2026】を開催します。ホテル全体がハワイになるサマーイベ

ントで、横須賀にいながら五感でハワイ気分を楽しめる体験型フェアです。20階特別会場のご利用の際は、吉住まで予約いただければ特別価格でご案内させていただきますので、是非お越しいただけることを心よりお待ちしております。

<卓 話>

これからの浦賀について ～ 浦賀レンガドック周辺地域の利活用 ～

横須賀市 経営企画部 企画調整課
次長 若麻績 順 哉 様

皆様、こんにちは横須賀市経営企画部企画調整課の課長をしています。若麻績 順哉と申します。若麻績という漢字が、本来すごく読みにくくて漢字の説明をするところなのですけれども、今日は割愛させていただきます。改めまして、本日このような場所をいただきまして、本当にありがとうございます。創立75周年ということで、私は1951年6月という日付で調べました。日米中交渉条約が締結された日だというのが分かりました。確か、歴史の教科書に載っていたなと思って、実はこの浦賀ですが、そのもっと前、咸臨丸（かんりんまる）が浦賀から出航した場所でもありますので、本日はその浦賀の話をしていただければと思います。あと、1951年75年前は紅白歌合戦が始まった年だそうです。また第1回ラジオの民放が始まった年だそうです。まだいろいろあるのですが、今日は割愛して説明させていただきます。まず浦賀の人口は横須賀市の10分の1にあたります。横須賀市が大体10地域に分けられますので、相応な平均の数値であるということです。浦賀レンガドックへのアクセス。これについてはもう皆さんご存知の通りですが、今回の事業が大きく動いたポイントとしては、浦賀が東京・羽田からの終着駅であるということ、高速でも東京・羽田から1時間以内にある場所であると、自然に恵まれている場所であるということが大きなポイントになっています。1950年ごろの浦賀は、今と全然違うのですが、数千人の従業員の方がお勤めになっていました。そして小学校も沢山浦賀にあったのですが、だいたいの生徒のお父さんは半数以上の方が手を挙げるぐらい、住友重機械工業様にお勤めだったと聞いています。帰宅時には、浦賀駅に行列ができるというお話も聞きました。現在は、工場が少しずつなくなって2003年に工場が止まって、約23年間倉庫として活用されているような状況です。2003年に操業停止をして、横須賀市の上地市長が就任したのが9年前になります。9年前までは何も動きがなかったのですが、実は、この場所には浦賀国際文化村構想という計画がありました。これは地域の皆さんをはじめ、いろんな方がこの街をこの場所を中心にこういう街にしようという絵を描いていたのです。ただよく考えると、この中心は住友重機械工業様の土地が多く、人様の土地になんで勝手に絵を描いているのだとおかしいじゃないかと・・・9年前就任した上地市長がそのことを議会で言いました。そしたらその翌日に、住友重機械工業の当時の社長から、大変感動しましたというお電話をいただきました。やはり、忸怩たる思いがあったと、そこから話が動き出しました。その後も、住友重機械工業様の発祥の地である愛媛県新居浜市と友好関係を結びまして、私も3年連続で行きました。「太鼓祭り」四国三大祭りですね。とても素晴らしいお祭りでぜひ見に行っていたきたいのですけれども、そういうような友好関係を築きながら、上地市長は浦賀のレンガドック、これはオランダと日本と世界に2つ3つしかない貴重なものですから保存してほしい、壊さないでほしい、埋めないでほしいということを住友様にお願いましたということがあって、2021年に一部レンガドックの周りを寄付いただくことになりました。ただまだその他の周りは、ほとんど住



友様の土地で、その後もいろんなことがありましたけれども・・寄付を受けたという場所、レンガドックがある場所です。そして我々横須賀市は、このレンガドックを観光に活用したい多くの人に利用してもらいたいとの思いでいろんな試みをしたのですけれども、やはり多くの他の事業者様が浦賀駅前も含めて興味があるというお話をいただきました。我々も浦賀駅前が工場のままで、ここのレンガドックにミュージアムを作ってもうまくいかないのではないかというお話になり、住友様といい関係が築けている中で他の土地を一体的に活用できる事業者様の公募をしませんか？というお話をしたところ。快諾を得た、というのが2024年の協定になります。そして、事業者を募集したところ、インデックス株式会社という会社を中心とした約10何社のグループにお話をいただくことになりました。私も水面下で、やはり民間企業の土地でありますから、あまり市役所の行政の人間がこの土地どうですか？興味ありますか？と動いているとよろしくないという声も聞いたので、実は、メールも文書も一切残さず、私、電話で本当に100社ぐらい東京のデベロッパーからゼネコンの方に声をかけて上地市長の思いとか皆様の思い、こういう街にしませんかということが続けてきました。それでやっと募集になりまして、事業者様が集まり今のコンセプトができてきたというところでございます。募集するときに、第二の開国という言葉を使っています。これは皆様ご存知の通り、1853年にペリーが来航した場所で、ここから日本の近代化が始まったと言っても過言ではない場所なのです。ここで第二の開国というのは、当時はペリーさんが黒船4隻来ましたが、今回はスーパーヨットを誘致して、新しいスーパーヨットというのを起爆剤中心にして町づくりをしようという思いと、ペリーという歴史を語り継いでいく造船の歴史という点でも、やはり第二の開国という言葉が相応しいのではないかとということで進めてまいりました。我々が浦賀の街をこうしたいという思いが3つありました。これは地域の方の声も少し参考にしながら聞きました。1つ目は海。この駅前という地形にありながらもものすごい静音度の高い海、そして500メートルの岩壁。ここを利活用しないといけないという点です。そして、2つ目が歴史です。この浦賀の町はご存知の方もいると思うのですけれども、江戸時代に西の方で綿を生産するのに費用がないので、浦賀はイワシ、干鰯（ほしか）大量に獲れるということでそういったことでもかなり歴史が深い町。おそらく住友重機械工業様の造船場ができたのも浦賀出身の中島三郎介さん。船が初めてバックするのを見て船ってバックするのだと感動し、造船の技術を学び継承していき、今の住友重機械工業様につながったという歴史がございます。

海の次は歴史です。そして3つ目が都市機能です。我々行政の目的、特に我々経営企画部は横須賀の地価を上げたいという目標が一つあります。やはりいい街にしたいというのは数値であられる。どうしたら浦賀の街の都市機能が上がるか、駅前でこれだけの海が目前の土地で利便性を高めるには、そこの今閉鎖された空間を15ヘクタール一体的に開発することで都市機能を作れるのではないかとということで、この3本柱で進めていった経緯がございます。ここから本題、皆さんが興味あるところなのですが、マリーナホテル、マンション、ビラ、商業施設、ペDESTリアンデッキというのはイメージでは、浦賀駅から横須賀駅をワイデッキで通すようなイメージでいいと思います。あと、私有地の方は、我々はレンガドックを中心にミュージアムを作りたい、そういう思いがございます。浦賀駅からペDESTリアンデッキを渡り、実は今考えている平面というのは大体2階レベルになります。交通渋滞が起こるといけないので、あと駐車場をどこに確保するかという問題で、基本的に車両は下を通ることになります。今のGLレベルですね。2階と1階に街ができるような、そんなようなイメージです。横須賀中央でいうとワイデッキがずっと広がっているような、そういう街づくりを進めたいと思っています。木下グループ様が老人ホーム、介護事業所を作りたいというのと、アーバンスポーツはまだ競技中なので成立するかどうかは、まだ、未定となっています。ここで話したいのが、新聞等で1000億規模の事業だと言われています。我々、子育て事業にお金を使わずに、浦賀の事業に1000億。そんな大金は何かと非常に怒られるのですけれども、実はこの1000億円は税金ではございません。すべて民間事業者様の資金で進めます。これももう公言しているのですが、ミュージアムにおそらく30億円ぐらいから40億円ぐらいかかります。これは税金ですけれども、ここの街ができると、固定資産税と都市計画税あわせて、約20年で30億円、40億円、オーバーして収入が入ってきます。ここを見据えてこのミュージアムを作るという計画です。よく考えると、今現在の計画ではこの浦賀の街づくりはプラスマイナスゼロです。税金を一切投入しない街づくりを進めようと、そういう思いで我々はやっています。ここ最近、近代文化遺産になっていますが、エレベーターをつけたりですとか、デッキの上を渡ったりとかそういう利便性が求められています。こういった文化資産は保存も大事です。けれども実は活用もすごく大事なのです。今も文化庁と、お話を進めているところです。ただ、釘一本レンガに打つといけないとか

です。例えば猿島はですね。国遺跡、日本遺跡となっておりますが、文化遺産になるとそれだけの制約が出てきます。ただ、文化庁から維持補修費として3分の2の補助がもらえることになります。ここのバランスを考えながら、我々もこのレンガドックをどうしていこうか、保存と活用をとって進めようかということも、有識者の方を含めて話していきたいと思っています。参考程度に、今の事業者様は海つながりでフランスの副大統領と話しているという話もありますが、海洋の環境に関するサミットを開きたいという意向があります。かなり強い思いで聞いています。ロータリークラブ様は海洋教育の奉仕ですとか、ゴミ拾いの社会奉仕の活動もされていると聞いていますので、例えば私のただの考えですけれども、こういったサミットにおいて一緒に何かできることがないかという考えも一つのアイデアかなと思いました。最後の方になってきましたが、今後の予定になります。3月30日に3社協定は結んでおります。そして、今年度から実はこの土地は、今のままで工業地域でした。マンションとかホテル、どうやって建てるのだという話があります。実は本来のやり方ですと、法の規制を変えて募集をするのですが、今回は逆で、まず夢を募集、応募してください。という形でマンションやホテルの応募が来ました。我々はこの絵を持ってこれから国ですとか県とかといろいろお話をし、ここにマンションもホテルも建てられるような規制緩和に向けた協議を大体1年半から2年ぐらいかけて話し合います。これはとても厳しい規制なので、そこを乗り越えて浦賀の街をもっといいものができるような、そういう地域にしていくという動きがありますので、実際の着工が2、3年後になるのですが、令和11年には一部供用開始をしていきたいと思っています。私と上地市長といろいろお話しをした結果、言いたいことは、先ほどの1000億のこともありました。あとは市民の方皆様にいろんなご意見をいただき、全部私は正解だと思っているのですが、ここにいる皆様にご理解いただきたいのはこの事業を進めるにあたって、実は横須賀市が持っている土地って一部なのです。本来は住友重機械工業様が勝手に売却して利益を目的にすればいい土地であって、一番高い金額に手を挙げてくれるところに売れる土地を、我々が住友様からご厚意を授かって、お話をさせていただいて、なるべく市民の皆さんに、工場ではなくて市民の方が入れる場所をそういったものにしたいという思いを聞いていただいたというところがあります。その辺だけ、もし皆様の周りでも反対だという方がいたら少しこういうお話もしていただければ私にとっては幸いです。何もしないと、この土地は動かないままなので、我々としては今回の事業はチャレンジと思っています。こういったチャレンジを、プロジェクトというのは一つ一つやっていかないと横須賀市は今のままでは人口減少が止まりませんのでやっていきたいと思っています。横須賀のいろんな事業をやられている皆さんと一緒に成長できてきたという思いがありますので、こういったプロジェクトを含めて引き続き皆様のご支援をいただきながら横須賀市を活性化していきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。

※内容を省略して掲載しています。

<閉会・点鐘> 13:30 山下 会長

週報担当 松川 太郎